

ユニットセンターの評価視点（案）

参考資料3

※ 平成29年度年次評価より平成30年度第1回評価ワーキンググループの議論の結果を受けての改定案

平成29年度年次評価書		平成29年度からの課題	平成30年度評価項目・基準の追加・修正（案）
総合評価指標		評価	
フォローアップ状況	現参加率	各ユニットセンターの規模を把握するための参考資料としてのみ活用する（評価は行わない）。	
	質問票回収状況（6ヶ月～5歳までの合計の質問票回収率）	回収率が86.8%（平均）以上を◎とする。また、平成28年度、29年度継続して回収率が0.5SD以上の場合は◎を加点する。	
	質問票回収率の維持状況（6ヶ月回収率と5歳回収率の差）	差異ポイント17ポイント未満を◎とする。	
	質問票回収率の直近の改善状況（昨年度の回収率の傾向比較）	傾き差異がプラスの場合を◎とする。	
エコチル調査に係る業務全般の取組状況	<p>エコチル調査に係る業務全般に関する取組のPDCA評価</p> <p>PDCAの観点を踏まえ、特に優れたフォローアップに係る取組を行っている場合を◎とする。</p> <p><PDCAの取組の視点></p> <p>①参加者の調査参加へのモチベーションの維持</p> <p>②質問票回収率の維持・向上</p> <p>③コミュニケーション活動</p> <p>④成果発表への取組</p> <p>⑤個人情報・倫理への配慮及びルール遵守に対する取組</p> <p>⑥予算の効果的な運用の取組</p>	<p>【昨年度年次評価に対するユニットセンターからの意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プロセスの評価としては、もっと重みをつけても良いのではないか。 ⇒評価の重み付けとして、「S」評価は、PDCA評価に◎が付くことを条件とすることとし、平成29年度の総合評価の評定のルールを変更した。 ・評価判断に明確な基準を設けるべき。 	<ul style="list-style-type: none"> ・PDCAの評価に重み付けがなされたことから、その重みの根拠として、評価判断の基準をより明確に示すべきでないか。 ①ユニットセンター同士で、お互いのPDCAの取組を読みその中から「良い取組」と思われる取組を5つあげる※。 ※自らのユニットセンター及び関連するセンター等（例えば、宮崎サブユニットセンターと沖縄サブユニットセンター同士）を除く取組の中から◎としてあげる。 ②①の集計結果を踏まえ、第2回評価にて、評価WG委員が「特に優れた取組PDCA」として◎をつけるユニットセンターを選定する。 ・評価を行う際の評価の視点について、昨年度の各①～⑥では重みが異なるのではないか。 ⇒3つの主軸を評価視点とする。 PDCAサイクルに則って実施されているかを確認する指標として位置付けることとし、下記の①～③の3項目を主軸に評価を行う。 なお、予算を効果的に活用した取組例等の、ユニットセンターにおいて、特に工夫した点がある場合は①～③含めて記載するか、又は、「④その他」として追記する。 ①参加者の調査参加へのモチベーションの維持 ②質問票回収率の維持・向上 ③コミュニケーション活動（参加者を含む調査地域でのリスク
エコチル調査ルールの遵守及び管理状況	<p>成果発表ルールの遵守状況</p> <p>個人情報の管理状況</p>	<p>ルール違反等が確認された場合は、フォローアップ状況が良好であったとしても、総合評価においてS・A評価の対象としない。また、2回以上（年度をまたぐ場合を含む）同じ内容でルール違反を発生させた場合は総合評価をCとする。</p>	<p>【昨年度年次評価に対するユニットセンターからの意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・煩雑でわかりにくいルールをペナルティーに入れるのは反対。
総合評価の考え方	<p>S： ◎が3個以上あり、且つ、PDCA評価が◎</p> <p>A： ◎が2個以上ある</p> <p>B： ◎が1個ある</p> <p>C： ◎がない</p> <p>※ 但し、ルール違反等があった場合は◎が2個以上の場合でもB以下となる</p>		